



## 女性消防団として、今我が町・町民に働きかける防火防災意識向上へのアプローチ



奈良県 河合町消防団女性分団  
分団長 秋吉コズエ

### 1 川に囲まれた町『河合町』 ～大和川とのあゆみ～

私達が住む『河合町』は、大和の山々に囲まれ、農業が盛んな奈良県の北西部に位置する町です。

奈良盆地の水系が全て合流した地点に位置し、一級河川の『大和川』となり、大阪湾に注いでいます。

古来、この土地の特性を活かし、大和川の南岸を川港（俗称：市場）とし、船問屋を設け運送業を営み大変賑わっていたと言います。

町内には大和川の支流である「佐味田川」が流れており生活の拠点となっていますがひとたび大雨が降れば洪水などの危険性も持ち合わせています。

町最古の氏神『廣瀬神社』に治水の神を祀り、日常の安全を祈願する程でした。

川がもたらす利便と災いの歴史を振り返り、私達消防団は、住民に対し防災活動の重要性を強くアピールしていかなければなりません。

### 2 私達は『河合町消防団女性分団』

河合町は男性消防団が設置されていました



大和川流域図

が「日頃の地域のコミュニケーション力や災害時、町内で活動する可能性の高い女性（特に主婦）」に着目し、男性消防団の補助として平成13年「河合町女性消防隊」を発足させました。

これまで男性消防団員中心であった活動も、平成25年『河合町消防団女性分団』として再結成し、防火防災活動を単体で行うようになりました。



河合町消防団女性分団

### 3 河合町消防団女性分団の 主な活動について

#### ① 通常時の活動

女性分団は、工作車を1台所有しており、有事に備え随時点検を行っています。

また、活動の一環として防火・防災だけでなく、青色パトロール（通称：青パト）で町内の巡回もしています。

これは以前、河合町に関わる重大な事件をきっかけに、町の安全のため実施されるようになりました。女性消防団員が、青パトで小中学校の下课時間帯に合わせて、日常パトロールしています。

#### ② 広報・イベント活動

各教育機関・福祉施設等で防火・防災教室、救命講習を定期で実施をしています。

防火教室は「stop down and drop（慌てて



工作車定期点検

走らず顔を手で覆って床にゴロゴロ転がる)」で衣類についた火の消し方を子供達（高齢者）と実践しながら指導します。

今後、火の大切さ＝火育も取り入れ、火は怖いだけでなく生きていく為に欠かせないものだと言う事も合わせて伝えていけたらと考えております。

救命講習では「by stander」（倒れた人の傍にいる方）の活動を強調し伝えています。AED講習は、平成16年より各施設にAED導入後、「もし人が倒れていたら、救急車の到着をただ待つのではなくその場に居合わせた自分の行動がいかに重要か」をキーワードとして受講者に伝えています。毎年救命講習会を開催し「習ったけど忘れた」を積み重ねて「習ったことが身について行動に移せた」と言われる事を目指していきたいです。

他、1年を通じて警戒や各訓練・イベント等に参加し、消防団の広報にも取り組みます。

### ③緊急時の活動について

火災が発生したら被害に遭った家族へのフォローを行い、行方不明者が出たら、警察と共に捜索活動を行います。町内を知る住民の私達が近隣の捜索に加わることで早期発見に繋がればといつも願っています。

災害時にも私達は救助や避難誘導、炊出しなどの活動を行います。

2017年の台風の時には大和川が危険水位を遥かに超え、「避難指示」が発令されました。

床下への浸水や土砂崩れ、川の氾濫により町の一部が水に浸かりライフラインが停止し



保育園にて『stop down and draw』



AED講習（消防団受講）

ました。女性消防団は工作車に分乗し、避難対象地域住民に「早く逃げて！」「川に近づかないで！」と叫びながら一人でも多くの犠牲者が出ないようにひたすら走り続けました。変わり果てた町の光景、迫り来る水、災害時の活動は正に恐怖との戦いでした。

## 4 おわりに

2017年の河川氾濫をきっかけに、災害は誰の身にも起こり得るものだと認識して以前より住民の防災意識が高まったように感じます。

講習等参加した住民から、受講後の質問の内容が具体的で身近に起こりそうな細部まで踏み込んだ内容が増えてきました。子供達も防火・防災教室で習った事を実践しながら家族に報告しているそうです。

町全体で協力し合って互いに命を守ることを目指し、「河合町消防団女性分団」はあらゆる可能性を見出してこれからも活動をしていきたいです。